

生命を守るために危険を予測し、 安全のための行動ができる児童の育成

江東区立第一大島小学校

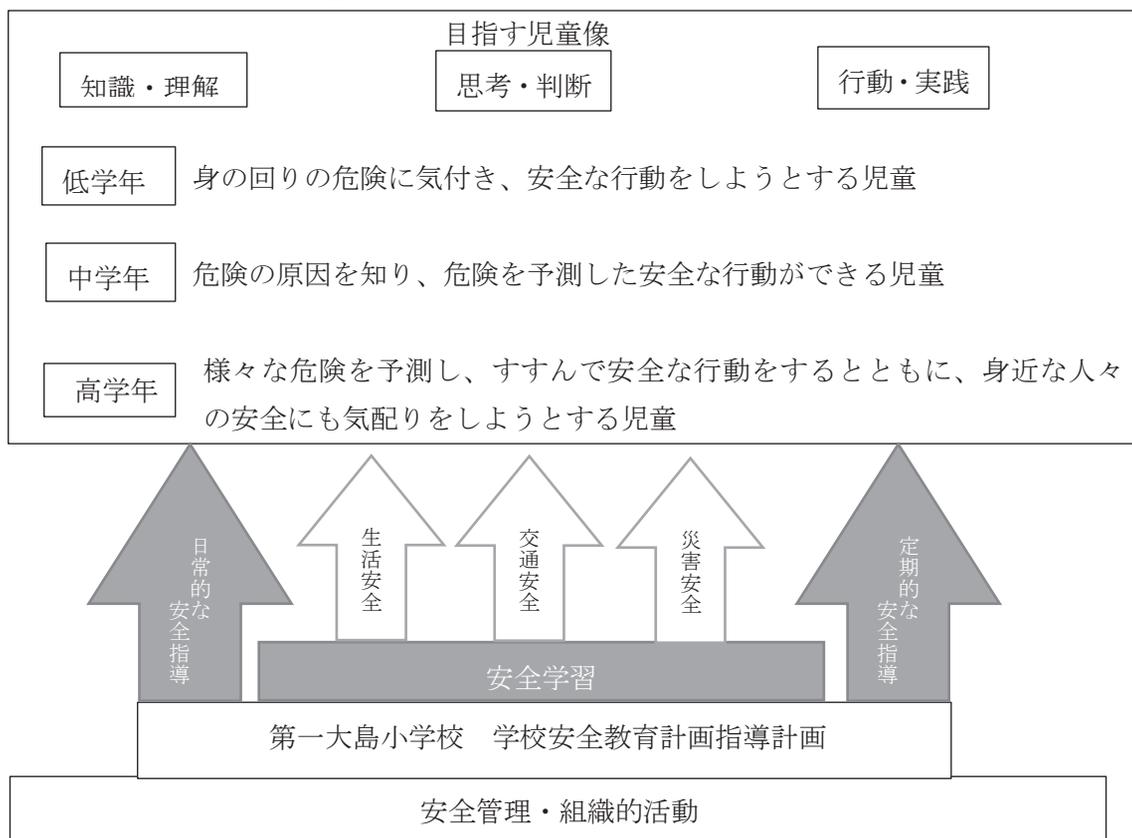
I 研究主題

1 主題

児童が、安全で安心できる環境で生活することは、全ての人々の願いである。しかし、今日、児童が犯罪に巻き込まれたり、交通事故や災害に遭遇したりする可能性は、ますます深刻になってきている。児童が、自分の命を守るためには、安全に対する正しい知識と、行動力が必要である。

しかし、児童の実態としては先のことを考えずに行動してしまったり、次の指示を待っていたりする姿が少なからず見られる。そこで、自分たちの身の回りに潜む様々な危険を予測し、安全のために自分で考えて行動できる児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

日常的・定期的な安全指導の改善・充実を図り、年間指導計画に基づいて安全学習を指導することで、自らの安全を確保するだけでなく、他者や社会の安全にも配慮できる児童の育成につながり、本校の教育目標「明るい子・考える子・助け合う子」を目指すことができると考えた。



2 安全教育の3本柱

日常的な安全指導

必ず指導する基本的事項を確実に身に付けさせるために、日常的な教育活動中で繰り返し指導

○安全指導日（月1回 始業前20分間）

- 年間11回分の年間指導計画の作成と安全指導の実施。
 - ・東京都安全教育プログラム【H28.3 東京都教育委員会】
 - ・東京防災【H27.9 東京都】
 - ・防災ノート【H27 東京都教育委員会】
- を活用した指導。



定期的な安全指導

身に付けた知識等を体験的に理解させ、深化させる指導

○避難訓練

- 様々な場面を想定した避難訓練の実施。
 - ・予告無し
 - ・清掃活動時
 - ・中休み
 - ・授業中
- 保護者参加型の避難訓練の実施
- 避難訓練実施後の評価と改善

○交通安全

- 登校班指導
 - ・7地区31班編制（H28年度）で毎朝登校
 - ・一斉下校訓練（4月）・班長交代式（2月）
 - ・クリーン作戦（登校班ごとに地区清掃）
- 関係諸機関を活用した指導 ・セーフティ教室 ・交通安全教室 など



安全学習

自分や他者の安全を守るためのよりよい行動などをじっくりと考えさせる指導

○各教科 道徳 総合的な学習の時間 特別活動（学級活動）

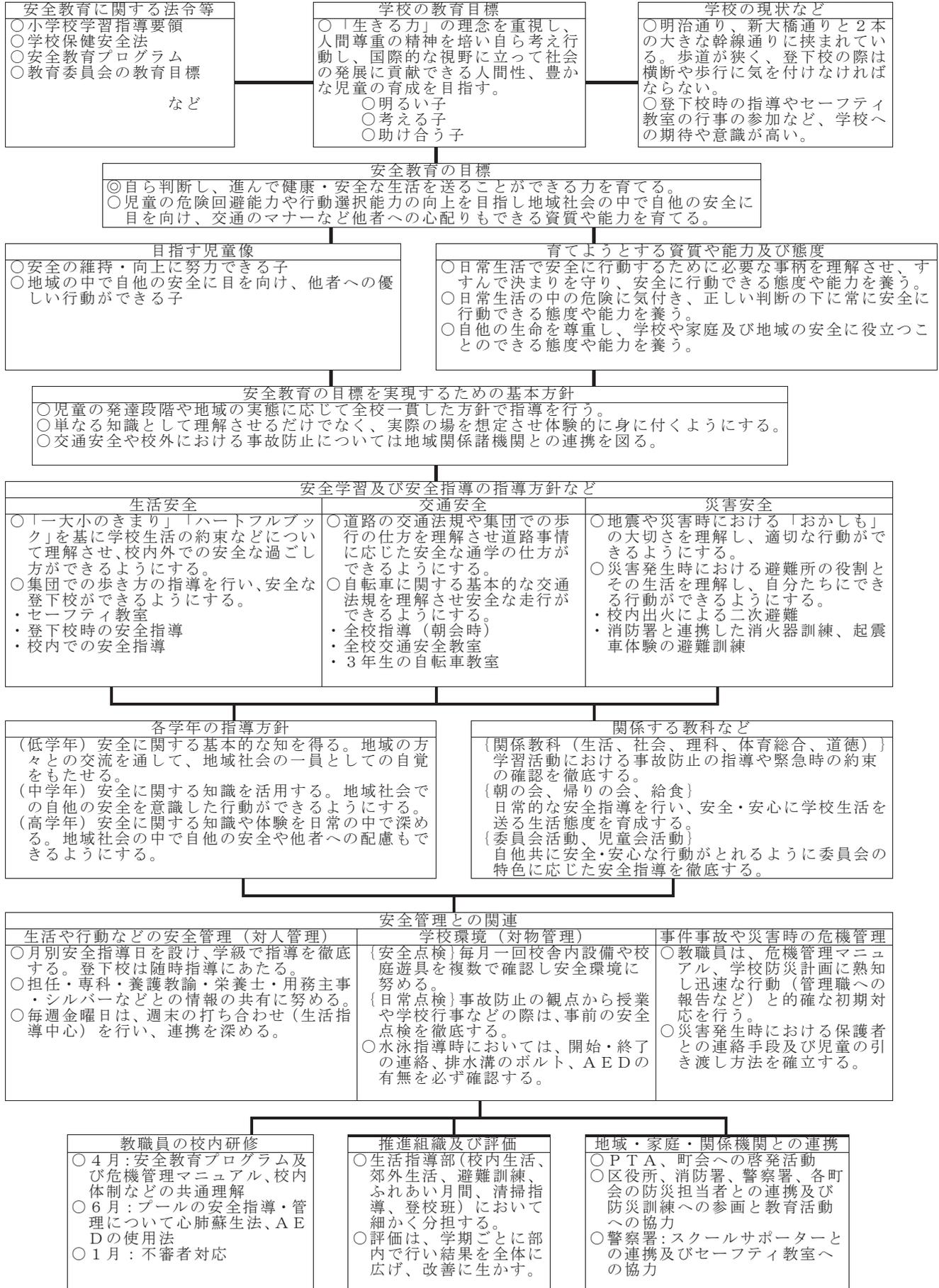
- 「危険予測・危険回避」を柱にした授業の実施
 - ・「津波について知り、避難の仕方を考えよう」（災害安全）
 - ・「じしんがおきたら」（災害安全）
 - ・「不審者から身を守る方法を考えよう」（生活安全）
 - ・「学校のまわりの交通安全を調べよう」（交通安全）
- 関係諸機関を活用した授業の実施
 - ・初期消火の仕方（城東消防署）
 - ・横断歩道の渡り方（城東警察）
 - ・SNSの使い方（NTTdocomo）など



II 本校の安全指導について

1 学校安全指導全体計画

江東区立第一大島小学校



2 安全指導年間計画

月	内 容	
4	通学路での安全 校舎内での安全	低学年：一度止まって右左右を見てから渡っていますか。 中学年：通学路の危険な場所を知っていますか。 高学年：下級生の様子を確認しながら登校していますか。
5	路上での安全 運動場での安全	低学年：防犯ブザーは鳴りますか。 中学年：交通ルールを守っていますか。 高学年：自転車に正しく乗っていますか。
6	雨の日の登下校 雨の日の室内遊び	低学年：かさを振り回さずに持って歩いていますか。 中学年：雨の日の道路の歩き方で気を付けることは何ですか。 高学年：どのような時にどんなケガがおきやすいですか。
7	自転車の安全な乗り方 夏休みの安全	低学年：こまめに水を飲んでいますか。 中学年：熱中症をおこさないために気を付けることは何ですか。 高学年：運転手からの死角を知っていますか。
8 9	災害(地震・台風)時の安全 交通安全	低学年：通学路を守って登校していますか。 中学年：雨や風の激しいときにどんな工夫をしますか。 高学年：災害が起きた時の連絡方法を知っていますか。
10	学校の施設や用具の安全	低学年：身の回りの整理整頓ができていますか。 中学年：廊下や階段での正しい歩き方は、どんな歩き方ですか。 高学年：AEDのある場所を知っていますか。
11	道路での歩行と乗り物の安全な利用 安全な運動	低学年：バスや電車の車内で気をつけることは何ですか。 中学年：～しながらあるいていませんか。 高学年：～しながら歩いたり、自転車に乗ったりしていませんか。
12	冬休みの安全	低学年：「いかのおすし」の意味が全部言えますか。 中学年：自転車のライトを点けなければならないのはなぜですか。 高学年：「直接」「文書」「メール」での伝わり方の違いは何ですか。
1	雪や凍った道での安全 登下校の安全 線路や踏み切りでの安全	低学年：ポケットから両手を出していますか。 中学年：道路の安全施設や標識を知っていますか。 高学年：自転車の特性を知っていますか。
2	火事のおそろしさ	低学年：ハンカチを身に付けていますか。 中学年：家や学校の中で火事を防ぐための工夫には、どんなものがありますか。 高学年：110番、119番のかけ方を知っていますか。
3	一年間の反省 春休みの安全	共通 ・安全に生活するために大切なことは何ですか。 ・交通安全で大切なことは何ですか。 ・災害から命を守るために大切なことは何ですか。

3 定期的な安全指導

避難訓練年間指導計画

月 日	想定	ね ら い	時 階 段	時間	予 告
4/12 (火)	近隣 火災	・近隣火災の場合の基本的な行動様式を理解し、安全に避難できるようにする。	11:40 全階段	15分	あり
5/6 (金)	津波	・津波発生の場合の基本的な行動様式を理解し、安全に避難できるようにする。	10:45 全階段	15分	あり
6/9 (木)	地震 近火	・地震発生の場合の基本的な行動様式を理解し、安全に避難できるようにする。	11:30 全階段	15分	あり
7/15 (金)	校内 火災	・校内火災の場合の基本的な行動様式を理解し、安全に避難できるようにする。 (主事室より出火)※4年消火器体験	2校時 給食室側 階段使用不可	15分 30分	あり
9/1 (火)	引き 取り	・災害の発生する恐れのある場合の、児童の安全確保、及び保護者への確実な引き渡しの訓練を行う。	5校時 全階段	45分	あり
10/17 (月)	校内 火災	・授業中に校内で火災が起きた場合の避難方法を身に付け、自ら判断して安全に避難できるようにする。 (家庭科室より出火)※二次避難場所(猿江公園)	3校時 全階段	15分 45分	あり
11/11 (金)	地震 近火	・休み時間に地震が発生した場合の避難方法を身に付け、安全に避難できるようにする ※5年起震車体験	20分休み 全階段	15分 45分	あり
12/8 (木)	校内 火災	・授業中に校内で火災が起きた場合の避難方法を身に付け、安全に避難できるようにする。 (給食室より出火)※全学年煙体験	5校時 給食室側 階段使用不可	15分 30分	あり
1/17 (金)	不審者	・授業中に不審者が校内に侵入した場合の避難方法を理解し、安全に避難できるようにする。	朝の読書タイム 全階段	15分	なし
2/7 (火)	近隣 火災	・休み時間に近隣火災が発生した場合の避難方法を身に付け、自ら判断して安全に避難できるようにする。	20分休み 全階段	15分	なし
3/9 (木)	地震 近火	・1年間の訓練で身に付けたことを生かし、安全に落ち着いて避難できるようにする。	清掃時 全階段	15分	なし

・一次避難場所は、校庭とする。原則として実施予定日の変更は行わない。

指導のポイント

地震……………緊急地震速報で訓練を行う。身の守り方、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」
 火災……………ハンカチがなくてもどのように口を覆うことができるかなど、煙から身を守る方法を考えて行う。
 引き渡し……………引き取りカードを使用する。校庭、体育館の引き渡しを隔年で行い、多様な状況を想定して行う。
 不審者……………不審者が侵入したときの行動を予測し、身を守る方法を考えて実践できるように指導を行う。

4 安全管理との関連（学校環境）

校内安全点検表

安全指導

担当場所

先生

○ 毎月10日に点検をする。

※ 点検ポイント

- ① さびやひび割れなどの劣化状況
- ② 部材の取付け状況（倒れないか、落ちないか、緩みはないか）
- ③ ささくれや天板のはがれ等の有無

○ 異常なしレ印 異常ありは備考に具体的に記入

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
教室	ドア・ガラス窓													
	床・天井													
	戸棚・ロッカー													
	机・椅子													
	蛍光灯、コンセント													
	掲示板 かべ													
	エアコン・テレビ													
廊下	避難用旗・ザック ヘルメット													
	床・掲示板													
	水道・流し トイレ													
転倒・落下の危険がある場所に物を置かない。														
備考	月	状況（どこが、どのようになっている）							担当より					

< 点検の実施に当たり >

- ① 家具の耐震性の点検（転倒・落下防止策がとられているか）
- ② 非構造部材の劣化状況の点検（さびやひび割れ、異常箇所の発見及び進行状況）
- ③ 家具等の使い方の点検（高所に重い物を置いていないか 地震や安全に備えた意識の確認）

上記①～③を念頭に、地震だけでなく、日常生活を行う上で安全かという視点にも立って点検を行う。

指導事例①

第1学年 学級活動（生活安全）

場所 教室

不審者から身を守る方法を考えよう

3組 33名 指導者 松平 拓矢

1 ねらい

不審者やあやしい人に出会ってしまった時の安全な行動の仕方を理解する。

（東京都教育委員会 安全教育プログラム I-4-③⑥⑦）

2 題材について

本学級の児童は、入学当初から全員が防犯ブザーを携帯していて、どの児童も使い方を理解している。また、登下校時はなるべく一人にならないように指導している。だが、実際に知らない人から声をかけられたとき、怖くて何も言えなかったり、何もできなかったりする児童もいることが予想されることから、自分で自分の身を守るためには、どうすればよいかを考える機会が必要であると感じた。この学習を通して、子供たちが「自分の身は、自分で守る」ということを強く意識し、安全な対処法を実践できるようにしたい。

3 主題に迫るための工夫

（1）ロールプレイによる体験

- ・実際に体験したり、友達が体験したりしている様子を見たりすることで、不審者への対処方法について具体的に理解できるようにする。

（2）DVD教材の活用

- ・映像資料を用いることで、不審者の行動パターンを知り、危険な状況をイメージしやすくする。
- ※「ナナミパパの青空防犯教室」東映株式会社教育映像部 ※「安全に通学しよう」文部科学省

4 指導計画（2時間）

時	学習活動	支援（○） 評価（■）
1 (本時)	<ul style="list-style-type: none">・不審者に声をかけられた時の行動の仕方を考える。・ロールプレイで実践し、理解する。	<ul style="list-style-type: none">○ロールプレイを行うことで具体的に理解させる。■不審者に声をかけられた時の行動の仕方を考えている。
2	<ul style="list-style-type: none">・映像資料を見て、不審者の行動について理解を深める。・危ない目にあわないようにするためにはどうしたらよいか考える。	<ul style="list-style-type: none">○映像から、不審者の様子や行動について留意させる。■危ない目にあわないようにするにはどうしたらよいか考えている。

5 本時の展開

(1) ねらい

- ・自分、または友達が不審者に声をかけられた時の基本的な行動を理解する。

(2) 指導の実際

学習活動（予想される児童の反応※）	留意点（・）支援（○）評価（■）
<p>1 困っている人に話しかけられた時どのような対応をするか考える。</p> <p>①「おなかがすごく痛くて。トイレの場所を教えて。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表児童が実際に体験する。 <p>2 本時の学習課題について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者対応の学習課題を知らせずに、ロールプレイに取り組みさせる。 ・＜場の設定＞下校中、突然、知らない人からトイレの場所を尋ねられる。
<p>知らない人に こえをかけられたとき、どうしたらよいか かんがえよう</p>	
<p>3 知らない人に突然話しかけられたとき、どうするかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①のケースについて考える。 ・②「家の人が事故にあった。一緒に病院に行こう。」 <p>※車に乗らない ※すぐに逃げる。※大人に知らせる。</p> <p>○ロールプレイで対処の仕方を実践する。</p> <p>4 友達が不審者に連れて行かれそうなところを見たらどうするかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで意見交換する。 <p>※大きな声を出す。「助けて!」「誰か来て!」</p> <p>※防犯ブザーを鳴らす。※周りの大人に知らせる。</p> <p>○ロールプレイを行い、実践力を高める。</p> <p>5 不審者とはどのような人かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知らない人と不審者のちがいは何か ・服装などの見た目で見分けられるか <p>6 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・＜場の設定＞下校中、車が近寄ってきて、知らない人に、車に乗るように言われた。 <p>■不審者に声をかけられた時の行動の仕方を考えているか。（観察・発言）</p> <p>○ロールプレイを見た後、全員で練習させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「のれません」「やめてください」などと、はっきり断ることができるように練習させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・＜場の設定＞下校中に、友達が無理やり車に乗せられそうになっている場面を目撃した。 <p>○友達のを考えを参考にしよう助言する。</p> <p>○ロールプレイを見た後、全員で練習させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見た目だけでなく、行動があやしい人、その場にそぐわない人があやしいことをおさえる。 ・「きょうは いかのおすし」の内容、大切さを確認する。きょ→距離をとる <p>○何れの場合においても「大人に知らせることの大切さ」を認識させる。</p> <p>■不審者に声をかけられた時の行動の仕方を書くことができているか。（ワークシート）</p>



指導事例②

第2学年 学級活動（交通安全）

場所 教室

学校の周りの交通安全を調べよう

2年3組 26名 指導者 佐藤 華子

1 ねらい

地域の交通安全について関心をもって調べ、交通安全を意識した生活ができるようにする。

（東京都教育委員会 会安全教育プログラム II-1-①②③）

2 題材について 3 主題に迫るための工夫 4 指導計画（8時間） 本時指導案 参照

5 本時の展開（1／8時）

（1）ねらい

・登下校中の様々な危険について予測し、道路を歩く時に気を付けることを考える。

（ II-1-① ）

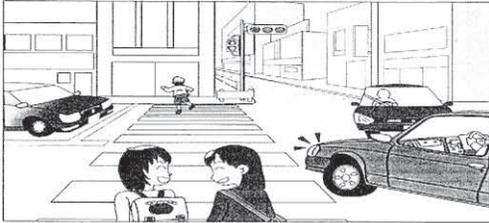
（2）指導の実際

学習活動（予想される児童の反応※）	留意点（・）支援（○）評価（■）
<p>1 道路を歩いていて「こわいな」「あぶない！」と思った経験について発表し合う。</p> <p>※自転車とぶつかりそうになった。</p> <p>※かどにいたら車が出てきた。</p> <p>※電柱にぶつかりそうになった。</p> <p>2 本時の学習課題について知る。</p>	<p>・どうしてこわい思いをいっぱいしてしまったのか、自分の行動について振り返らせる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <h3>どうろの歩き方について考えよう</h3> </div>	
<p>3 イラスト【1】を見て、どのような危険があるか考える。</p> <p>（信号のある交差点を友達とお喋りしながら歩いている。信号は青。右折、左折してくる車がいる。）</p> <p>※車が曲がってきてひかれてしまうかも。</p> <p>※運転手さん、こっちを見ているかな。</p> <p>4 イラスト【2】を見て、どのような危険があるか考える。</p> <p>（見通しの交差点の向こうで友達が呼んでいる。曲がり角に車が止まっている。）</p> <p>※飛び出したら危ないかな。</p> <p>※止まっている車が動かないかな。</p> <p>5 学習したことを基に今日から道路を歩くときに気を付けることを確認する。</p>	<p>○イラストの小学生になったつもりで予測できるよう助言する。</p> <p>○言葉で表すのが難しい児童はイラストに印をつけるよう助言する。</p> <p>・イラストの上から、更に必要な情報を付け加えて予測させる。</p> <p>・ワークシートに書き込み、グループで確認する。</p> <p>・「もしかしたら～かもしれない」という危機感がもてるよう助言する。</p> <p>■道路における様々な危険について理解し、安全な歩行のために自身が気を付けることを具体的に記述している。</p> <p>（ワークシート）</p>



【1】

大きな交差点で信号が青になりましたが、おしゃべりしながらわたろうとしています。どんなきけんがありますか？



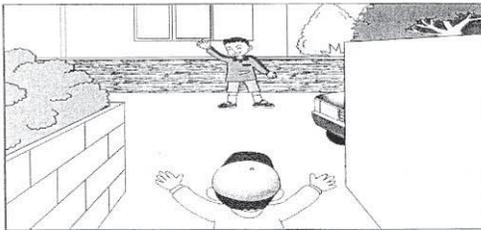
あなたは どうする？

どんなところがあぶないかな？

あなたは どうすればいいかな？

【2】

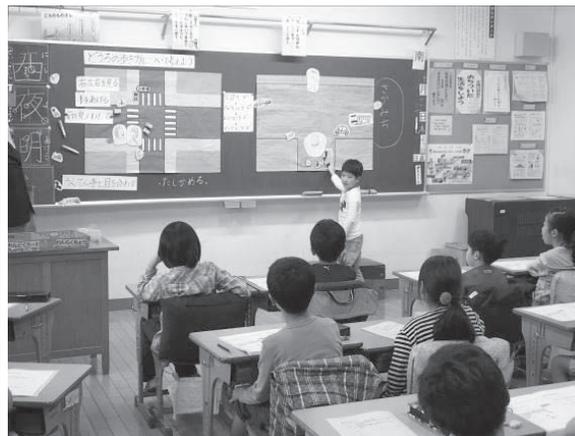
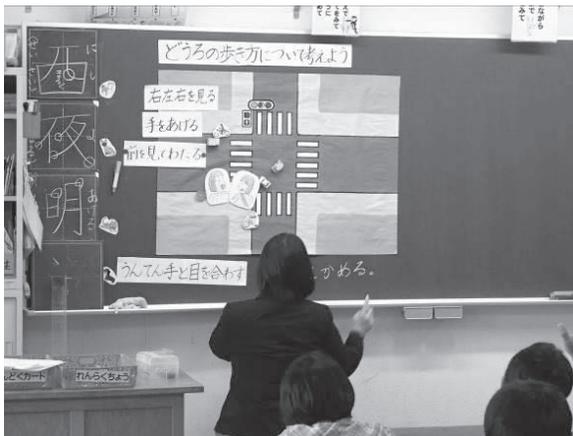
見通しのわるい交差点の向こうがわで友だちがよんでいます。どんなきけんがありますか？



あなたは どうする？

どんなところがあぶないかな？

あなたは どうすればいいかな？



指導事例③

第3学年 学級活動（災害安全）

場所 理科室／音楽室

じしんがおきたら

1組 38名 指導者 佐々木 優子（担任）
佐々木 令子（養護教諭）

1 ねらい

地震がおきた時は、物が「落ちて」「倒れて」くることを理解し、校内で起こるかもしれない危険を予測し、回避する行動がとれるようにする。（東京都教育委員会 安全教育プログラム III-2-①②）

2 題材について

東日本大震災の発生より5年が経過し、3年生にとっては、記憶があいまいな実情がある。しかし、先日の熊本・大分の地震のことや、前日に地震があった時は、そのことを話題にするなど、関心は高い。地震による災害から命を守るためには、災害についての正しい知識をもち、十分に備えをしておくことが必要である。

3 主題に迫るための工夫

（1）資料の活用

- 「じしんのえほん～こんなときどうするの？～」作：国崎信江 絵：福田岩緒 ポプラ社
- 「地震と津波から命を守る」NHK地震防災DVD（東京書籍）

（2）実生活に生かせる児童の育成

- 理科室・・・ビーカーなど、「落ちて倒れて」くる物が多い、
机はあるが、身体ごと下に入るのは難しい。防災頭巾は、持参していない。
- 音楽室・・・机がない。ピアノがある。壁際に楽器がある。防災頭巾は、持参していない。

4 指導計画（3時間）

時	学習活動	支援（○） 評価（■）
1	<ul style="list-style-type: none"> ・地震が起きると部屋の中の物が「落ちる」「倒れる」ことを理解する。 ・教室内の危険な物や場所について、理解し、「落ちてこない」「倒れてこない」場所で安全な姿勢をとることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○絵本や再現映像を見せて、教室内がどうなるか、予測させる。 ■地震によって起こる危険を予測し、安全な姿勢をとることを理解している。揺れの恐ろしさを知ることができたか。
2 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室内の危険な物や場所について理解し、「落ちてこない」「倒れてこない」場所で安全な姿勢をとることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○落ちてこない、倒れてこないことを確認する。 ■特別教室内の危険箇所を知るとともに、危険を回避するための行動を考えることができたか。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の中での様々な生活時間帯に地震が起きたときの身の守り方について考え、理解し、安全な姿勢をとることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○掃除中、どこにいるのか、何をしているのか思い浮かべ、考えられる危険について考えさせる。 ■学校の様々な生活時間帯に地震が起きたときの身の守り方を考え、理解している。

5 本時の展開

(1) ねらい

- ・特別教室内の危険な物や場所について理解し、「落ちてこない」「倒れてこない」場所で安全な姿勢をとることを知る。
- (Ⅲ-2-②)

(2) 指導の実際

学習活動（予想される児童の反応※）	留意点（・）支援（○）評価（■）
<p>全員、理科室で学習</p> <p>1 本日の避難訓練で、緊急地震速報が流れたとき、どんな行動をとったか、振り返る。</p> <p>※「落ちてこない」「倒れてこない」を考えた。</p> <p>※防災頭巾をかぶって、机の下に入った。</p> <p>2 本時の学習課題について知る。</p>	<p>○意見が出ないときは、当日に担任が目にしてきた児童の姿を伝える。</p>
<p>教しついがいの場所で、じしんがおきたときの みの守り方を考えよう</p>	
<p>二教室に分かれて学習(2カ所で並行して進める)</p> <p>3 「落ちてこない」「倒れてこない」という視点で安全な場所を考える。</p> <p>・室内を歩いて、気が付いたことをワークシートに書く。</p> <p>※椅子がないときはどうしたらいいのかな。</p> <p>※ガラスのそばは、危なそうだな。</p> <p>4 気が付いたことを発表する。</p>	<p>○実際に音楽室や理科室内を歩き、気付いたことや身の守り方を考えさせる。</p> <p>・音楽室には、あらかじめ音楽の学習用具を置いておく。</p> <p>■それぞれの場所において起こりうる危険を予測することができたか (ワークシート・発言・ハンドサイン)</p> <p>■起こりうる危険に対し、身を守る行動を考えたことができたか。(行動)</p>
<p>音楽室に集まる（全員）</p> <p>5 ①音楽室チームの身の守り方を理科室チームが見学し気が付いたことを発表し確かめる。</p> <p>理科室に集まる（全員）</p> <p>②理科室チームの身の守り方を、音楽室チームが見学し、気が付いたことを発表し合い、確かめる。</p> <p>6 本時のふり返しをする。</p> <p>7 次時に、様々な生活時間帯に地震が起きたときの身の守り方について考えることを知る。</p>	<p>・まずは自分の身を守ることを（特に頭と首）が一番であることをおさえる。</p> <p>○安全でない場所で身を守っている行動については、安全かどうかを確認する。</p> <p>・「倒れてこない」「落ちてこない」ところで身を守ることを確認する。</p> <p>■自分たちが調べていない教室でも身の守り方を考えることができたか。 (ワークシート・発言・ハンドサイン)</p>



指導事例④

第4学年 学級活動（交通安全）

場所 教室

自動車による事故に合わないようにするために

1組 33名 指導者 前原 聖子

1 ねらい

自動車の内輪差や運転者の死角等自動車の特性から危険を予測し、安全な行動について考える。

（東京都教育委員会 安全教育プログラム II-3-①③）

2 題材について

学校周辺には交通量の多い交差点も多く、児童が歩行者であったり、自転車に乗っていたりする際、大きな事故に巻き込まれる危険性が高い。本時では危険な自動車による事故にあわないようにするために、自動車の特性を基に危険を予測させ、回避するための行動について考えさせる。

3 主題に迫るための工夫

（1）資料の活用

・実際に大型車の死角や内輪差を見せることにより、自動車の特性について理解を深める。

○佐川急便株式会社「交通安全教室～交通ルールを守ろう～」

（2）実生活に生かせる児童の育成

・学校付近や自宅付近に大きな道路があり、自動車による事故が身近に起こりうる環境で生活している。自動車の特性を知ること、登下校や外出の際に、自動車による危険を予測し、安全に行動できる児童を育てたい。

4 指導計画（3時間）

時	学習活動	支援（○） 評価（■）
1	自分たちの身の回りの交通事情を考え、自動車の特性にはどんなものがあるか考える。	○学校周辺の地図を用意し、大通りに面している、信号が多い、車が多いなど、交通事情を考えさせる。 ■学校付近や自宅周辺の交通事情を考え、自動車の特性を考えている。
2	自動車の内輪差や運転者の死角など、自動車の特性を知る。	○佐川急便の出前授業を活用し、死角や内輪差などを実際に体験させる。 ■自動車の内輪差や死角などの特性を理解し、自動車事故の原因を理解している。
3 本時	自動車の特性についての知識を基に、危険を予測し、回避するための行動を考える。	○視聴覚教材を利用し、実際に事故が起こるのはどのような場合か考えさせる。 ■自動車の特性を理解することで、自動車による事故の危険を予測し、回避するための行動を考えている。

5 本時の展開

(1) ねらい

自動車の特性をふまえて、危険を予測し、回避するための行動を考える。 (Ⅱ-3-①)

(2) 指導の実際

学習活動（予想される児童の反応※）	留意点（・）支援（○）評価（■）
<p>1 前時の学習を振り返る。 ※「死角」がたくさんあった。 ※「内輪差」が原因でひかれそうになった。</p> <p>2 自動車の運転手や同乗者が感じる事故の危険についてインタビューしてきたことを発表する。 ※見えているからたぶん大丈夫だと思った。 ※運転手が歩行者をあまり見ていないと事故につながる。</p> <p>3 本時の学習課題について知る。</p>	<p>○前時で体験した内容を想起させ、自動車の特性について振り返らせる。</p> <p>○家の人に聞いた運転者側からの「ヒヤリハット」の経験を確認し、自動車に乗っているときに危険を感じたことを考えさせる。</p>
<p>きけんを予そくし、それをさける方法を考えよう。</p>	
<p>4 どのような危険が考えられるか、各自で考える。</p> <p>【事例1】 ※自動車には死角があるから、きっと運転手さんからは見えていないので、ぶつかる。 ※この人は「大丈夫」と思っているから、スピードを落とさずに進んでぶつかってしまう。</p> <p>【事例2】 ※自動車の陰から何か出てくるかもしれない。 ※後ろが見えていないから、ぶつかる。</p> <p>5 自動車の特性をふまえて、危険を回避するためにできることを話し合う。 ※運転手からは歩行者や自転車が見えていないこともある。だから、歩行者は運転手とアイコンタクトをすればよい。 ※自動車の特性がわかっているならば、自動車による事故も減ると思う。</p> <p>6 本時の学習を振り返る。</p>	<p>・ J A 共済「交通安全教育DVD」</p> <p>○運転手から歩行者がどう見えるかについて実際に体験したことを基に考えるよう声をかける。</p> <p>■これから起こる自動車による事故の危険を予測している。(ワークシート)</p> <p>○各自で考えたことをもとにして、グループで意見を交流することで、考えをより深められるようにする。</p> <p>○自動車の特性をふまえて危険を予測し、回避するために、どのように行動したらよいのか考えさせる。</p> <p>■自動車の特性を理解することで、自動車による事故を避けるために、自分自身が気を付けることを考えている。(ワークシート)</p>



指導事例⑤

第5学年 総合（災害安全）

場所 教室

津波について知り、避難の仕方を考えよう

2組 41名 指導者 高木 哲

1 ねらい

津波の危険と適切な避難方法と対処について理解し、安全な行動ができるようにする。

2 題材について

東日本大震災を経験し、直近の熊本地震のニュースを見て、被災者になるかもしれないという思いを誰しもが抱いている。夏に岩井臨海学校に行く5年生が、海辺での安全、特に津波から身を守る方法を考え、地震や津波、その他の災害から身を守る方法を身に付けられるよう、本題材を取り上げた。

3 主題に迫るための工夫

（1）資料の活用

視聴覚資料 「東日本大震災 巨大津波、あのとき何が起こったのか」NHK スペシャル
「津波から逃げる」気象庁

（2）実生活に生かせる児童の育成

- ・臨海学校で岩井海岸に行く前に、海岸にはどのような危険があるかということを考えることで、津波について知り、避難方法を学習することの必然性を感じさせる。

4 指導計画（4時間）

時	学習活動	支援（○） 評価（■）
1	・岩井町の写真を見て、起こりうる危険について考える。映像を見る ・学習課題 (津波を知り、避難の仕方を考えよう。)	○実際に行く場所の写真を見せ、どのような危険があるかを考えられるようにする。 ■岩井町で起こりうる危険について考え、津波被害にあう危険性があることを捉えている。
2	・津波について知りたいことを調べる。 ・分かったことをワークシートにまとめる。	○インターネットの活用の仕方を確認する。 ■インターネットを活用し、自分が知りたいことについて調べ、ワークシートにまとめている。
3	・津波と普通の波の違い、地震と津波の関係性、津波の威力を知る。 ・地震が起こる原因を知る。 ・地震によって津波が起きる原因を知る。	○視聴覚教材を利用し、地震や津波発生メカニズムを分かりやすく説明する。 ■地震や津波のメカニズムについて理解している。
4 (本時)	・太平洋沖地震での津波被害から津波が起きた際の避難の方法を考える。 ・岩井海岸での避難の仕方考える。 ・地図を見て安全な場所や、危険な場所を探す。	○実際に起きたことを基にして、安全な行動を考えられるようにする。 ○岩井町の地図から、高台や高い建物があることに気付かせる。 ■津波に対しての安全な行動の仕方考え、理解している。

5 本時の展開

(1) ねらい

- ・津波が起きた際の避難の方法を考える。(Ⅲ-2-②)

(2) 指導の実際

学習活動（予想される児童の反応※）	留意点（・）支援（○）評価（■）
1 津波が起きたときの避難の仕方を考える。 ※高いところへ逃げる。 2 本時の学習課題について知る。	・高いところへ避難することを押さえる。 ・高いところへ避難したにもかかわらず、危険な状況に陥った人のことを紹介する。
津波が起きたときの、より良い避難の仕方を考えよう	
3 問題点を考える。 ・危険な状況に陥ってしまった人の映像から、問題点を考える。 4 津波が起きた際の避難の仕方を考える。 ・問題点を踏まえ、避難できた人達の映像を見て、より良い避難の仕方を考える。 ・避難の仕方や、注意点、心構えを考え、ワークシートに書く。 ・ペアで交流する。 ・全体で交流する。 ※津波が来なくても、油断しない。 ※周りの状況に気を配り、素早く避難する。 ※低いところには戻らない。 5 災害が起きたとき、誰が判断して行動するのかを考える。 ※大人・先生・親・自分 6 岩井海岸での避難の仕方を考える。 ・地図を見て安全な場所や、危険な場所を探す。 ※高台や高い建物があるから、そこに避難すれば良いのではないか。 7 本時の振り返りをする。	・油断や思い込みから危険な状況に陥ったことを押さえる。 ・最初の避難の仕方との違いを考えさせる。 ・思い込みをしない、最悪の事態を想定する、周りの状況に気を配ることを押さえる。 ○避難している映像や、避難に失敗した人の話、資料などを見せて自分の考えに生かすように助言する。 ○友達のを参考にするよう助言する。 ■より良い避難の仕方を考えているか。 （ワークシート・発言） ・より良い避難の仕方を確認する。 ・「津波てんでんこ」の意味を教える。 ・自分の命を守るための行動は、人任せにせず、自分で考えることが大切であることを押さえる。 ○岩井町の地図から、高台や川があることに気付かせる。 ・岩井海岸での避難方法を理解している。



指導事例⑥

第6学年 理科・学活（災害安全）

場所 理科室

土地のつくりと変化

1組 34名 指導者 長谷川 あゆみ

1 ねらい

- ・火山活動や地震による大地の変化と災害とを関係づけて調べ、地震発生のしくみを知り、自然の力の大きさを感じる。
- ・地震発生時には状況に応じた安全な行動がとれるようにする。

（東京都教育委員会 安全教育プログラム III-2①②）

- ・避難所の生活を知るとともに、災害時に自分達ができることを考え、共助の意識を養う。

（東京都教育委員会 安全教育プログラム III-6②③）

2 題材について

地震のメカニズムなど正しい知識を得てから、地震発生時における適切な対応を考えさせ、防災に対する意識を高める。

3 主題に迫るための工夫

資料の活用

- 「火山活動による土地の変化」、「火山活動や地震とわたしたちの生活」NHK VIDEO 教材
- 被災地の状況、被災地での生活状況（画像）
- 江東区防災マップ

4 指導計画（10時間）

次	時	学習活動	支援（○） 評価（略）
もの 土地を つくっ ている	1	土地はどのようなものからできているか、どのようにしてできたか話し合う。	○校庭の下がどうなっているのか想像させる。
	2	しま模様に見える土地の様子を調べ、土地は、どのようなものからできているか考える。	○土地をつくっている粒子には色や形、大きさなど観察する視点を明確にする。
	3	化石の定義について知り化石について調べる。	○化石標本を用いて観察させる。
流れる 水 地層	4	・丸い礫や化石の地層はどのようにしてできたか。	○第5学年の流水のはたらきの学習を想起。
	5	・岩石には、砂岩、泥岩があることを知る。 ・海底にできた地層が地上で見られるわけ。	○モデル実験のようすと地層を比較させる。
火 山	6	火山のはたらきでできた地層についてまとめる。	○写真や映像資料を用意する。
よる 土地 の 変 化 火 山 活 動 や 地 震	7	・火山活動や地震で土地はどのように変化するか。 ・火山活動や地震で土地が変化したようす ・断層の実験を行い、地層がずれるようす	○火山活動や地震による災害の映像資料を提示し、災害は身近で起こることを意識させる。 ○断層の実験。土地が変化するようすの理解。
	8	・地震の種類としくみについて知る。	○実験を通して地震のメカニズムを理解する。



地震とわたしたちの生活	9 本 時 10	<ul style="list-style-type: none"> ・地震によって身の回りの様子がどのように変化するのか考える。 ・地震発生時、様々な状況を想定して身の守り方を考える。 ・緊急地震速報のしくみを知る。 ・緊急地震速報受信後、どのような行動をとればよいのか考える。 ・避難所での生活のようすを知り、六年生として自分たちにできることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○江東区防災マップを参考にさせる。 ○P波、S波の伝わり方がわかる実験装置を利用 ○緊急地震速報の意義を知らせ、緊急地震速報を聞いたら、どのような行動をとればよいのか考えさせる。 ○避難所の映像を見せる。 ○避難所では、他の人と協力すること、自分で行えることは自分ですることなどが必要であることを知らせる。
-------------	-----------------------	---	---

5 本時の展開

(1) ねらい

- ・自分が住んでいる地域の被害を予想し状況に応じて適切な判断をし自分の身の守り方を考える。

(2) 指導の実際

(Ⅲ-2-②)

学習活動（予想される児童の反応※）	留意点（・）支援（○）評価（■）
1 本時の学習課題について知る。	
<p>地震で身の回りの様子がどのように変化するか知り、身の守り方を考えよう。</p>	
2 液状化現象について知る。（液状化実験） ※水がしみ出る。 ※地面がやわらかくなる。（地盤が緩む。） ※建物が傾いたり倒れたりする。	○小さい揺れを起こすように助言する。
3 高層ビルの揺れ方について知る。（共振実験） ※高い建物が大きく揺れるとは限らない。 ※地震の揺れ方によって建物の揺れ方も変わる。	○大きな揺れや小さな揺れなどいろいろな揺れを試すよう声をかける。
4 実験をして気付いたことをワークシートに記入し、全体で話し合い、交流する。	
5 地震によって起こる身の回りの被害を予想する。 ※高層ビルの揺れ ※液状化現象 ※家屋倒壊 ※火災 ※いろいろな物の落下 ※エレベーター内閉じ込め	○「江東区防災マップ」を参考にさせる。 ■地震発生時の被害を想像することができたか。（発言） ○様々な場所で被災したことを想定させる。
6 地震発生時、自分ならどういう行動をとりたいか考える。	■地震発生時の身の守り方を考えることができたか。（ワークシート・発言）
7 本時のふり返りをする。	

